

2019年3月期 本決算説明会 Q&A
(2019年5月16日(木) 15:00~16:00 開催)

Q1.サステナビリティレポート等の作成は無いようですが、決算説明資料ではSDGsに関連した開示が見受けられます。このようなレポートの開示の検討状況について教えてください。

A1. (回答者:取締役 大貫) 現状、レポートの開示は行っておりませんが、社内では検討を進めております。(定性情報について) 株主・投資家の方々にアピールしていきたいと考えております。

Q2.ESGでは、特に「S (Social・社会)」について人権リスクなどが注目されているという潮流がありますが、人権に関する基本的なポリシーの公表もご検討ください。

A2. (回答者:取締役 大貫) 貴重なお意見をありがとうございます。こちらにつきましても、検討していきたいと考えております。

Q3.2018年10月にコーポレート・ガバナンス・コードを更新され、そのなかで実施しないとする項目についていくつか理由を説明(explain)されていましたが、そのうち中期経営計画、後継者計画、社外取締役の拡充についての検討状況について教えてください。

A3. (回答者:代表取締役 柴田) まず社外取締役の拡充につきましては、本年6月末に開催予定の定時株主総会に社外取締役の交代について付議しており、(承認後) 取締役6名中2名が独立社外取締役となる予定です。

また、同株主総会終了後に開かれる取締役会にて指名報酬委員会が発足予定です。後継者育成、取締役の報酬についても検討してまいります。

Q4.株式会社ロペライオソリューションズ(以下「ロペライオ」)を(2019年4月1日付で)買収されましたが、買収後のマーケットシェアと収益性の向上について教えてください。

A4. (回答者:代表取締役 柴田) (自動車購入者、自動車販売店ではない) 当社グループのような第三者が提供する自動車保証のマーケットにおきましては、買収前の当社グループのシェアが約50%、ロペライオのシェアが約20%であり、合わせて約70%のシェアとなっております。

また収益性につきましては、買収前より当社グループにおいて保証収益はしっかりと確保をしており、収益率について差異のないようにロペライオの収益率を上昇させたいと考えております。今後約1年をかけて、バックヤードの統合を図るなどしていきたいと考えております。

Q5.海外事業の利益規模について、既存進出国の黒字化維持とありますが、(既存進出国で

ある) タイとインドネシアでそれぞれでどのくらい利益が出ているのでしょうか。また事業拡大に当たっての競争環境について懸念はありますでしょうか。

A5. (回答者: 代表取締役 柴田) 既存事業につきましては、利益規模は49百万円くらいでございませう。どちらかの国が大きくマイナスになっていることはなく、また事業拡大に当たっての今後の懸念材料も特段ないと考えております。特にインドネシアに関してはまだスタートしたばかりなので、今後さらなる収益化が見込まれると考えております。また、海外展開に関して、持分法の範囲内で展開する方針としております。クレジット事業は競争環境ではありますが、ワランティ事業につきましてはASEANにはほとんど商品が存在せず、事業伸長の余地は大きいと感じております。

Q6. 株式会社ロペライオソリューションズ買収による収益影響はどう考えていますか。

A6. (回答者: 代表取締役 柴田) 2019年4月1日に株式を取得したため、事業計画には入れておりませんが、収益にプラスになると考えております。

Q7. 個人向けオートリースについて、業界の勢力図は既に決まっております後発参入は厳しいのではないかと考えておりますが、展開方法や展開規模についてはどのようにお考えでしょうか。

A7. (回答者: 代表取締役 柴田) 法人向けオートリースとは異なり、当社グループが手掛けるのは個人向けオートリースでございませう。オートクレジットの競合他社も、中古車販売店を提携先とした事業モデルで、個人向けオートリース事業の業績を伸ばしております。当社グループも加盟店から「個人向けオートリースの取扱いをしてほしい」というお声を多くいただいております、そのお声をもとに事業規模を勘案しているため勝算は高いと考えております。

※数値の一部において誤植がございましたので、正しい数値にて記載しております。

※文意を変えないという前提で、投資家様の理解に資するよう、字句修正等を行っております。